

# 機械災害の現状と事例

労働者健康安全機構労働安全衛生総合研究所 清水 尚憲\*  
\*しみず しょうけん：機械システム安全研究グループ

## 1. 平成28年の製造業における 災害の発生状況

今年度は、労働安全衛生法に基づき、労働災害を減少させるために厚生労働大臣が重点的に取り組む事項を定めた計画「第12次労働災害防止計画(平成25年度～29年度)」の最終年度となっている。本稿では、第12次労働災害防止計画の中で設定された製造業対策に関する目標と現状を踏まえ、近年の機械災害の現状と事例について解説を行う。

第12次労働災害防止計画での製造業対策では、「機械の本質安全化により、機械の挟まれ・巻き込まれ災害を防止すること」を柱としており、5年間で死亡者数を平成24年比5%以上減少させることを目標としている。製造業における労働災害は大きく見ると減少傾向にあるが、平成28年の死亡災害は平成27年より17人(10.6%)増加しており、業種別では、金属製品製造業で33人、食料品製造業で20人、鉄鋼業で17人、輸送用機械等製造業で14人、一般機械器具製造業で14人となっている。また、事故の型別では、挟まれ・巻き込まれ：62人、墜落・転落：25人、崩壊・倒壊：14人、飛来・落下：14人、激突され：13人となっている。また、派遣労働者の死亡者数については、

21人で平成27年の2倍の数となっている。

平成28年の死傷災害は前年より63人(0.2%)増加しており、業種別では、食料品製造業：8,061人、金属製品製造業：4,211人、化学工業：1,919人、輸送用機械等製造業：1,781人、一般機械器具製造業：1,676人となっている。また、事故の型別では、挟まれ・巻き込まれ：7,017人、転倒：4,977人、墜落・転落：2,882人、切れ・こすれ：2,601人、動作の反動・無理な動作：2,248人となっている。また、年齢別としては、40歳未満は前年度より減少しているのに対して、40歳以上は逆に増加している。

## 2. 典型的な災害事例と災害防止対策

典型的な災害事例としては、以下に示すものがある。それぞれの災害に対する一般的な災害防止対策も併せて示す。

- ① 旋盤を使用して、機械器具の部品を製造していたところ、衣服の一部が旋盤に巻き込まれて、頭部などを強く打った(挟まれ・巻き込まれ)

〔災害防止対策〕

作業に適した服装(長袖着用で袖口はきちんと留める、長い髪は束ねて帽子を着用)で、保護メガネを着用し、軍手など巻き込まれやすい手袋は使用しない。回転中の切り粉除去にはウエスを用